

2018年9月 ことばのテーブル学習会

キーワードから考えることばの学習(20)

副詞について考える

言語・学習指導室
葛西ことばのテーブル
三好純太

副詞とは何か

おもに述語となる動詞や
形容詞を修飾する語

『はじめての日本語教育:基本用語辞典』より

おもに動詞や形容詞の意味を強め
たり、くわしく説明したりすることば

『学研レインボー小学国語辞典』より

「夏休みの宿題がいっぱい 出た」

副詞には どんなものがあるか

ずっと

そろそろ

もうすぐ

まだ

たくさん

ちょっと

ほとんど

かなり

やっと

せっかく

きっと

やっぱり

ぱくぱく

さらさら

なぜ

どう

すごく

明るく

イ形容詞連用形

静かに

きれいに

ナ形容詞連用形

今回のテーマを選んだ理由

発達障害の子どもの 副詞の習得の難しさ

ことばのテーブルに来ている子どもは
副詞が十分に使えていない

使えていない状況は・・・

副詞を持っていない

副詞の語彙が少ない

副詞の使い方が不適切

副詞を限られた意味でしか使えない

難しい副詞の意味・用法がわからない

あいにく、ともかく、ことごとく

発達レベル

副詞における問題（発話の例）

ぜんぜん、いい

しかし最近を使うようになってきた

→ 係り結びの誤り

3個があります

時の名詞でも。「明日に、行きます」

→ 副詞的用法の誤り

なぜ、遊園地？

副詞は、基本的に動詞・形容詞にかかる

→ 疑問詞使用の誤り

ヒューヒュー飲む

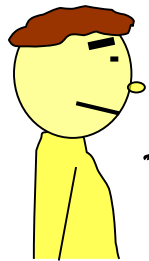
「星がピカピカに光る」のような誤りも多い

→ オノマトペの誤り

擬音語・擬態語

でも、いちばん多いのは…

副詞の無使用



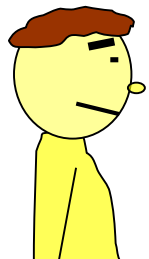
3時まで
50個できる？

できます

たぶん、できます

というべき

数が多い
けど…

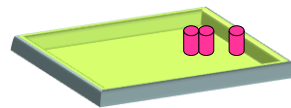


部品、
まだ、ある？

あります

少し、あります

というべき



「確実度」

副詞における問題例(理解)

「ほとんど残っていない」を

“ゼロ”と捉えてしまう

「そろそろ始まる」を

“今すぐ始まる”と捉えてしまう

「もし行けたら、行くね」を

“必ず行く”と捉えてしまう

副詞は生活の中の大切なことば

だから、副詞の習得は

コミュニケーション能力の拡大につながる

でも・・・もっと重要なのは

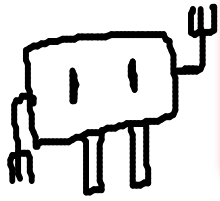
副詞が身につくようになる、ということ

発達障害の子どもにとって

副詞の習得は、発達の根本であり

また到達目標でもある

👉 「ミーニングとセンス」



今回のキーワード

オノマトペ

算数文章題

センスとミーニング

自分を離れる

自分の科学

今回のお話の流れ図

副詞の基礎知識

副詞の働きと特徴

副詞の種類

副詞の発達

オノマトペ

文法から見た副詞の難しさ

算数文章題

意味から見た副詞の難しさ

ミーニングとセンス

自分を離れる

副詞の学習

学びについての考え

自分の科学

日本語の副詞の基礎知識

日本語の副詞の文法機能・特徴

● 動詞や形容詞などの述語を修飾する

↓
より詳しく
説明する

● 活用がない

たくさん

同じ修飾語でも
形容詞なら

明るい⇒明る**か**った、明る**け**れば

● 助詞がつくことがある

・あっさり 認めた → あっさり**と**、した味

・ピカピカ 光る → ピカピカ**に**、磨く

● 動詞や形容詞などの述語を修飾する

* 雪が、**ずっと**、降っている。



* ご飯を、**たくさん**、食べる。



* このケーキは、**とても**、うまい。



動詞にかかる

* ご飯を、**たくさん**、食べる。

たくさん = 「食べる」という動詞を
修飾している

形容詞にかかる

* このケーキは、**とても**、うまい。

とても = 「うまい」という形容詞を
修飾している

動詞や形容詞に対する心理も表す

* 答えは、**やっぱり**、間違っていた。

やっぱり = 「間違う」ことに対する
予想・推測を表現している

* **なぜ**、旅行に行くの？

なぜ = 「旅行に行く」ことに対する
疑問を表現している

副詞のなかまわけ

● 状況を表すもの

ずっと まだ

● 程度を表すもの

ちょっと いっぱい

● 気持ちを表すもの

せっかく やっぱり

● 擬音語・擬態語

とんとん のろのろ

● 係り結びをとるもの

ぜんぜん (・・・ない) もし (・・・たら)

副詞の発達

10ヶ月 1才 1才半 2才 3才 4才 5才

始語
表出



2語文
表出



多語文
表出



可逆文理解

★喃語活発化

★構音完成

副
詞

副詞が出だす



増加



高度な副詞

イッパイ
モット
ワンワン...

ドウ・ナゼ

絶対

「どうして？」質問期

その他
の品詞

形容詞出現

増加

時・数の名詞

発達初期に発話される副詞

●オノマトペが多い

モーモー

ガーン

どんどん

●数量に関するものが多い

もっと

いっぱい

ちょっと

●時に関するものが多い

さっき

こんど

まだ

もう

! 副詞は、音と数量と時に、深い関わりを持つ

👉「オノマトペ」「算数文章題」

副詞の発達の特徴

★ 1才半頃から少しずつ使われ出し、
3才以降から増加

★ 4才以降は、漢語の副詞も出てくる

絶対

一切

NHKブックス「ことばの誕生」より

しかし、副詞の習得は、
名詞・動詞に比べて遅く、誤用も多い

👉「副詞の文法の難しさ・意味の難しさ」

そして…

日本語の副詞の発達を、
もっとも特徴づけ、その基盤となるのが

オノマトペ

||

さまざまな、音や様子を
感覚的に表現したことば

イメージのことば

オノマトペ

Mimetic Expressions

オノマトペとは

擬音語・擬態語

擬音語

* 物音や鳴き声などの音を表したものの

ザーザー

ワンワン

パチパチ

擬態語

* 動きや状態を表したものの

へらへら

もたもた

ぶよぶよ

★ 擬音・擬態両方で
使われる語も多い

どんどん

どんどん叩く

どんどん増える

そして

日本語は、オノマトペが非常に豊かな言語

オノマトペの特徴は → 音の反復

ポタポタ

pota pota

カタカタ

ユラユラ

ケロケロ

1つのオノマトペが、2音・3音～の
バリエーションを持つ場合も多い

キラキラ



キラ(っと)

キラリ(と)

それから・・・オノマトペには、もうひとつ特徴がある

オノマトペの音にはイメージ傾向がある

コロコロ

ゴロゴロ

サラサラ

ザラザラ

トントン

ドンドン

清音

濁音

小さい・軽い・滑らか

大きい・重い・粗い

このような音の持つイメージは音象徴とよばれる

音象徴現象

★母音アは「大きい」「丸い」イメージ

↔ 母音イは「小さい」「尖った」イメージ

 ギザギザ

★無声音は、「軽い」「澄んだ」イメージ

↔ 有声音は、「重い」「濁った」イメージ

などなど

音象徴現象は、どの言語も共通性が見られ
人間の共有感覚とされている

そして、このような特徴を持つオノマトペは

言語発達の中で



早い時期から使われ出して行く

それはなぜだろう

そしてまた・・・

子どもは、生活の中で

オノマトペを、どうやって

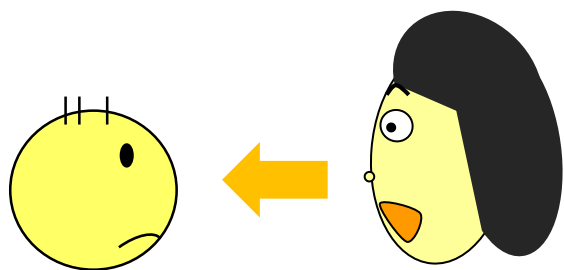
身につけて行くのだろうか？

まず.. 子どもは、オノマトペをどうやって
覚えるのだろうか？

それはたぶん..

たくさん

お母さんや、周りの人が 使うから



雨、ザーザーだね

ワンワン鳴いてるよ

パチンって割れちゃった

トントンやってたね

ポーンってして！

マザリーズ(母親語)の特徴

お母さんは、子どもに対して
オノマトペをたくさん使う
それはなぜか？

オノマ
トペは

- 感覚的でわかりやすい 音象徴現象
- 子どもが真似をしやすい
- 使い道が広い

* これらのことにお母さんは暗黙に気づいている

●子どもが真似をしやすい

音節の反復は、赤ちゃんの喃語の特徴

ガーガー

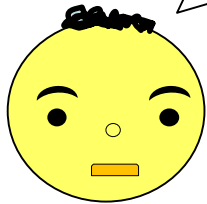
バブバブ

同期

足のけり



手のバタバタ



身体運動と連動しながら

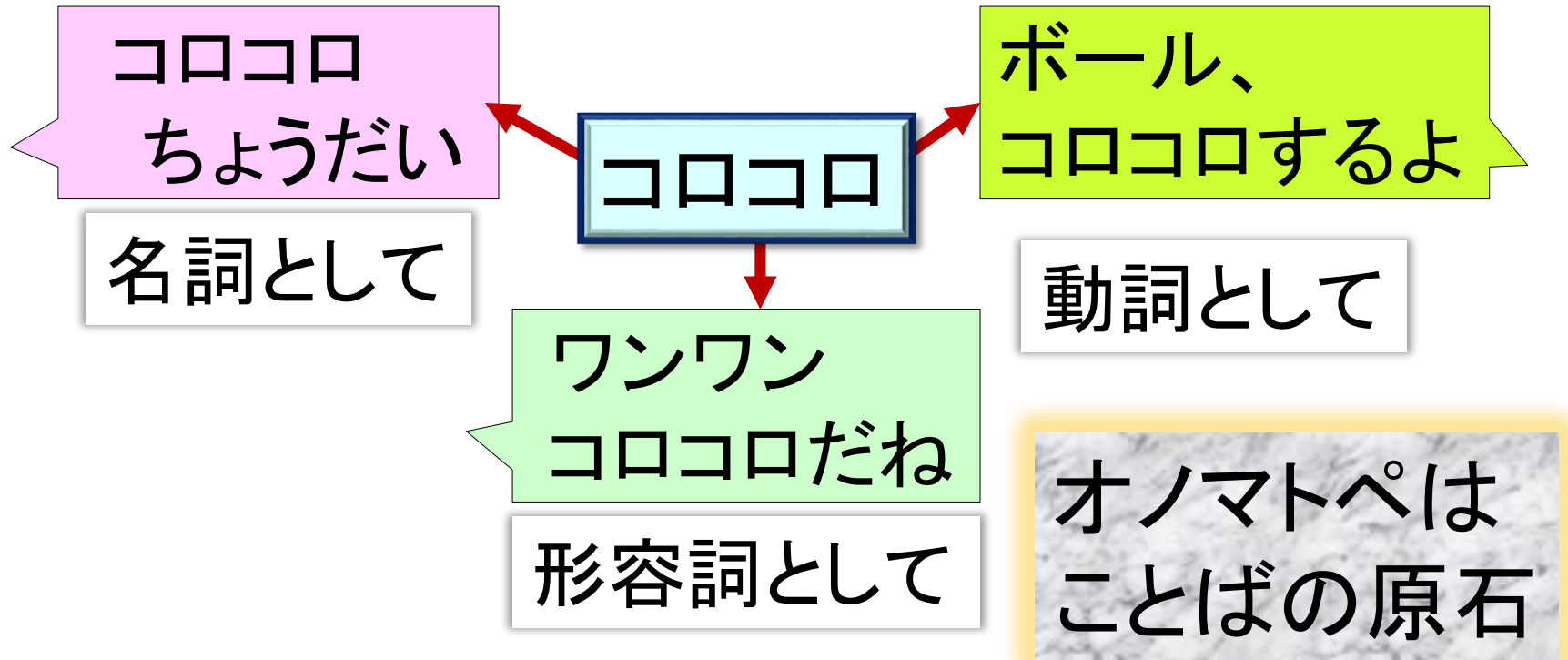
息を切って発声することを覚えて行く

第17回学習会「プロソディーについて考える」スライドより

子どもにとってオノマトペは発語しやすい

● 使い道が広い

お母さんも、子どもも、オノマトペを
さまざまな品詞として活用する



そして..

オノマトペの使い道の広さは
ことばの発達の過程だけのものではない

なぜなら、オノマトペの多用性・多様性は

日本語の発達の過程に
由来するものだから

オノマトペは
日本語のさまざまなことばの
基になっている

ピカピカ → 光る

ゆったり → 豊か

ぺこぺこ → へこむ

やんわり → 柔らかか

ぶるぶる → 震える

き(っと) → きっと

いそいそ → 急ぐ

ず(っと) → ずっと

石ころ・賽ころ

* 小さく丸いもの

ころ

いちころ

コロっと

コロリ

ころがる

コロコロ

ころぶ

「コロコロ」
から派生した
ことば分布図

* 暗くてダーティー

ゴロゴロ

ごろつく

これらのことに
子どもは暗黙に
気づいている

ゴロリ

ごろつき

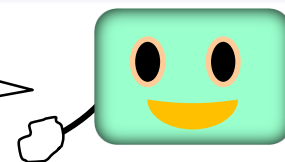
ゴロっと

地ごろ

言語発達におけるオノマトペの役割と大切さ

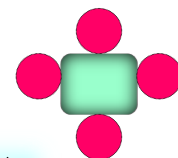
感覚的に捉えることができ、
また使いやすい(言いやすい)オノマトペは
子どもにとって、ことばの世界の**ガイド**となる

まずはわかりやすく、イメージしてみましょー



オノマトペ君

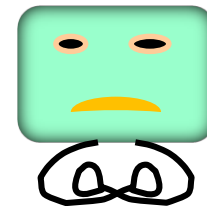
そして、オノマトペを通して
日本語の音感の基盤が培われ
日本語の語彙や文法が広がって行く



そんな、子どもにとって親しみやすく大切な
オノマトペなのだが・・・

じつは・・・

オノマトペは難しい



たとえば

母語が日本語でない外国人にとって
日本語のオノマトペはわかりづらい



直感的には処理できない

実際、同じ環境音の表現でも、言語の違いで
かなり大きな隔たりがある

ブタの鳴き声

日本語: **ブーブー** 英語: **フィンクフィンク**

鐘の鳴る音

日本語: **ゴーン** 英語: **ディンドン**

また・・・

発達障害を持つ子どもの多くも
オノマトペは苦手

動物の鳴き声や、よく使われる
トントン、ザーザーなどの擬音語は
比較的身につけているが

擬態語や、使用頻度の低い擬音語は
使いこなせていない場合が多い

子どもの誤用から①

ピカピカの使用例

火が、ピカピカ もえる

懐中電灯が、ピカピカ する

太陽が、ピカピカ 光る

なぜ、感覚・イメージで直感的に捉えられる
はずのオノマトペが、難しいのだろうか？

その理由は・・・

オノマトペは、その国の**ことば** だから

オノマトペは、世界中の人々が
直感的にわかる音象徴だけで
できているのではない

オノマトペが覚えられるためには

その国のことばの音の感覚（音感）を
共有していなければならない

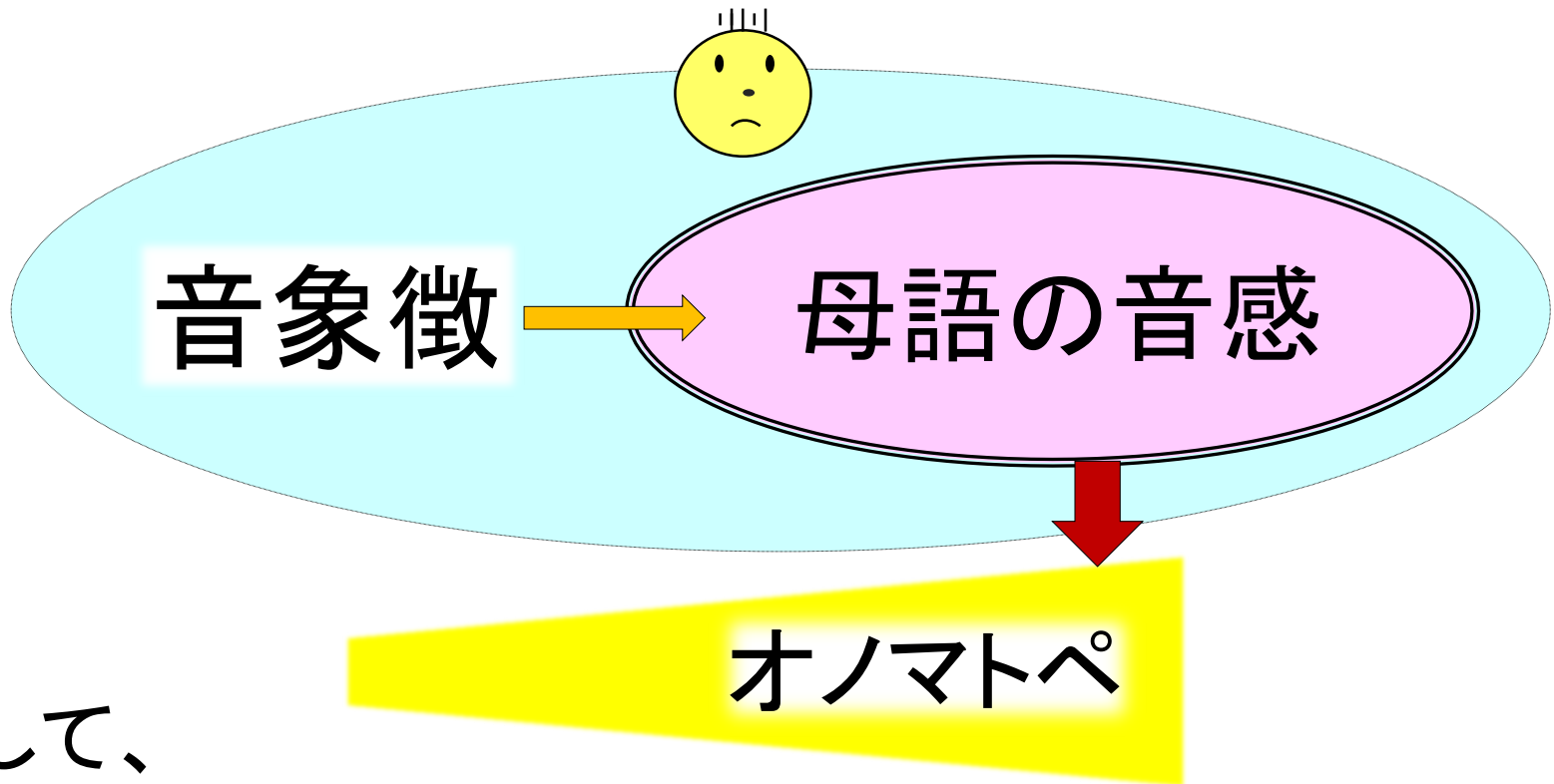


日本語なら日本語の音感

私たちは、ことばの発達の中で・・・

音象徴の共有（人間全般の共有）から、

それぞれの母語の音感の共有に進んで行く



そして、

母語の音感がオノマトペを豊かにして行く

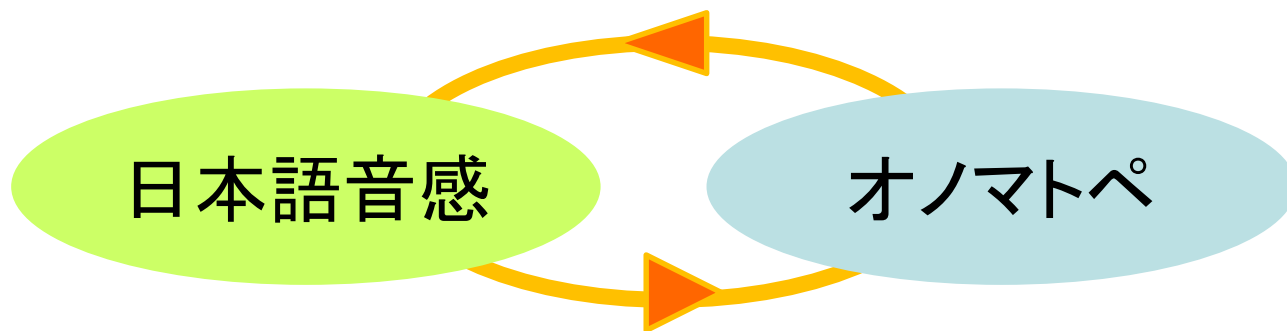
では、日本語の音感を育てるためには？

オノマトペにたくさん触れる

たくさん触れる中で音感を育て

その音感を支えとして

オノマトペを増やして行こう



オノマトペをたくさん使おう

たとえば、作文などでも、オノマトペを
たくさん取り入れた表現を勧めてみる

ただ、作文での使用や学習には
問題や難しさもある

ひとつには ■ 社会的な問題として

オノマトペは、幼稚な表現、また
動詞や形容詞の乏しさを補う代用表現

と、捉える考え方が根強くある

ex.「垂れる」を知らないから「ポタポタする」で代用する

一方、■実用的・学習的な問題として

語りや作文の未熟な子どもには、まず

話の概要を、短い文章で簡潔に伝える

ことを教える

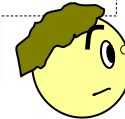
★その中に、オノマトペを取り込む余裕がない

オノマトペは、事実の報告ではなく、状況や様子を
生き生きと伝えるもの ★より良く伝えたい という動機が必要

また、オノマトペは感覚・イメージのことば

★他人が経験には、
適切なオノマトペを加えにくい

ちょっと
違う…



「川がサラサラ
流れていた」
にしようね



ということで

まずは、子どもに対する**会話**の中で
大人がオノマトペをたくさん使おう

そして、そのときは

オノマトペに動詞や形容詞を添える

形でことばを示そう



ゴシゴシ こすってるねー



* 動詞の意味を推測させ、習得を促す

そして少しずつ、**語りや作文**の中に取り入れて行こう

👉 「副詞の学習」

副詞の難しさ

オノマトペに限らず

子どもにとって副詞はどれも難しい

そして

副詞の習得の難しさには、
2つの側面がある

文法的な働き・用法の難しさ

ことばの意味の難しさ

副詞の文法的な働き・用法の難しさ



修飾語としての働き・用法がつかめない

ネコが、**たくさん**、いる。

発達の過程で、子どもは副詞を、
間違って解釈したり
用いたりすることが多い

子どもの誤用から②

電車が、もうすぐ。まってるから・・・

かかるべき動詞がない → 述語的に捉えている

ケーキは、たくさんを、食べた

動作の対象の格助詞「を」をつけている → 名詞的に捉えている

星が、ピカピカに、光ってた

活用させている → ナ形容詞的に捉えている

これらの誤用は

副詞が、1語で、活用せず、述語にかかる
という文法的性質がわかっていないこと
に起因している

副詞の文法的な難しさは、
副詞をひとつのなかま(カテゴリー)として
認識しにくいことにも原因がある

これは副詞の
なかまだな。
それなら…

それに対して…

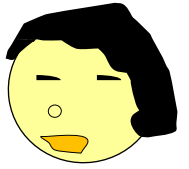
名詞や動詞は、なかまとして認識しやすい

子どもは、発達の初期、
基本語として名詞・動詞を中心に覚える
そして… ↓

名詞や動詞の品詞としての特徴を暗黙に理解する

ママ

おかいもの に いった



名詞

動詞

- 形が変わらない
- 主語や目的語になる
- 助詞がつく



- 形が変わる
- 述語になる
- 語尾がウ列音

行く・着る・走る

名詞らしさ、動詞らしさを、形や位置で見抜きやすく、なかまとして分類しやすい

* その文法的働きも理解しやすい

一方、名詞・動詞に対して

形容詞・副詞などの修飾語は、
子どもの理解や使い方に、誤りが多い

たとえば、**形容詞**は、発達の初期、

赤いのクツ

丸いのオニギリ

のような誤用が多い

* 形容詞を名詞的に捉え、助詞「の」をつけている

「みどりのクツ」「さんかくのオニギリ」など、「の」で、
つながなければならない語もあるのもエラーの要因

それでも、まだ・・・

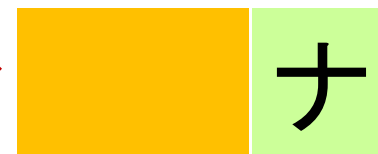
形容詞は、ことばの形が決まっており
同じなかまとして認識しやすい

たかい



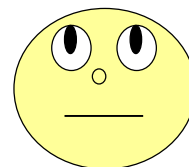
はやい

しずかな



きれいな

おなじなかまだな・・・



注:「きれいかった」のような、
イ形容詞とナ形容詞の混用は多い

同じなかま(品詞)として認識できれば・・

そのことばの役割が洞察しやすくなる

形容詞なら・・

同じなかま

ひろい

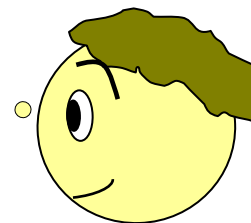
ながい

あまい

それに続くことばを修飾する

どれも、モノや動作の様子を
説明しているんだな

ながい鉛筆



修飾語としての理解・運用が進みやすい

しかし、副詞は・・・

ことばの形が千差万別

やはり

とことこ

せっかく

かるがる

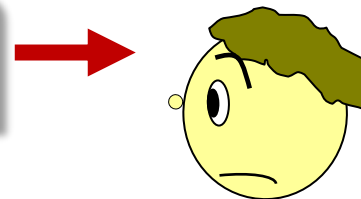
きっと

だいたい

たくさん

おそるおそる

んー・・・これは
名詞か？動詞か？
形容詞か？



同じ品詞として
認識しにくい

副詞の

修飾の働きや文の中での使い方がわからない

語彙が広がらず、また誤用も多くなる

ところで、なぜ副詞は形がいろいろなのか
それは・・・

副詞の語源がさまざまだから

はるばる → 形容詞「遙かだ」の はる の繰り返し

のびのび → 動詞「のびる」から

ころころ → 物が転がる擬音・擬態 → 動詞：転ぶ

あんがい → 漢語「案外」から

ぐっすり → 英語の good sleep から (他説あり)



でも、これらのことを私たちは暗黙に気づいている

そして..

この副詞の修飾の働きを知らないと、
理解できないものがある

それは..

数量に関する文

翌日、学校に行って、一時間目の教場に入ると団子二皿七銭と書いてある。実際、おれは二皿食って七銭払った。

夏目漱石『坊ちゃん』より

そして.. 数量に関する文の理解は、
学習に直結する問題にもなる

算数文章題

算数文章題は

数量に関する文でできている

リョウ君は、柿を3個食べました。

また1個食べました。

リョウ君は、柿をいくつ食べましたか。

この文章中の は、副詞の部分

「1個」、「3個」は、数の名詞(数詞)



しかし、この文では副詞として働いている

数詞の副詞的用法

リンゴを **1個** 食べました。

ネコが **3匹** いました。

算数文章題の中の数(数詞)は、
動詞や形容詞を修飾している

! 時の名詞も、同様な副詞的用法を持っている

レイナさんは、**きのう**、テニスをした。
それから、**今日**、マラソンをした。

だから、

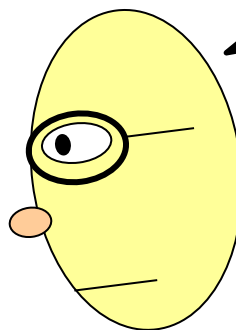
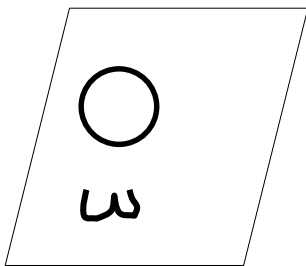
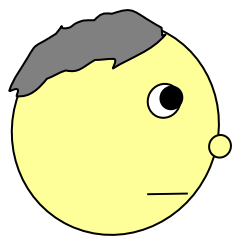
- リンゴを、2個、食べた
- リンゴを、いっぱい、食べた

いっぱい = 副詞

この2つの文は、同じ構造をしている
でも、これらの文を、子どもが

正確に理解していないことが多い

たとえば・・・



マルを、**3個**
描いて！

マルを、
いっぱい
描いて！

できないパターン

○を1個、かく

「3」「いっぱい」とかく

「3個」や「いっぱい」の意味は知っていても
「3個」の**副詞的役割**が分かっていない

！「3個」と「描く」が結びつけられない

さらに、このような文で…

くみさんより、**2枚**、**多く**、買った。

バスは、**5分**、**早く**、着いた。

2まいが、多く、を修飾し、

2まい多くが、買った、を修飾する

重ね副詞句の構文は難しい

！算数文章題で、つまづく子どもの多くは、
このような文の理解ができていない

そしてさらに…

ルミさんはアメを5個持っています。

もし、ケン君が、ルミさんより、アメを

3個多く持っていたとすると、ケン君は

アメを何個持っていますことになりますか。

算数文章題は、副詞で溢れている！

算数文章題は難しい

でも、文章題を含めて

数や量の学習は、

副詞習得の格好の機会

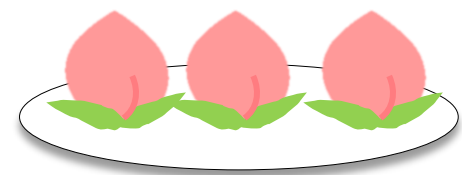
日常生活では、数は必ず、何かの状況や属性を表し、そして修飾語として働いていることが多い

猫は足が
四本あるよ



4

(足の数)



3

(桃の数)



数や文章題を通して副詞を身につけよう

まずは..

～を、 □個、 食べた。

～が、 □匹、 いる。

数(副詞)

動詞

などのような

数を記述する基本文を理解し
使えるようになる必要がある

そのためには..

● 程度の副詞の習得が必要

程度の副詞

いっぱい

ちょっと

たくさん

すこし

ほとんど

ぜんぜん

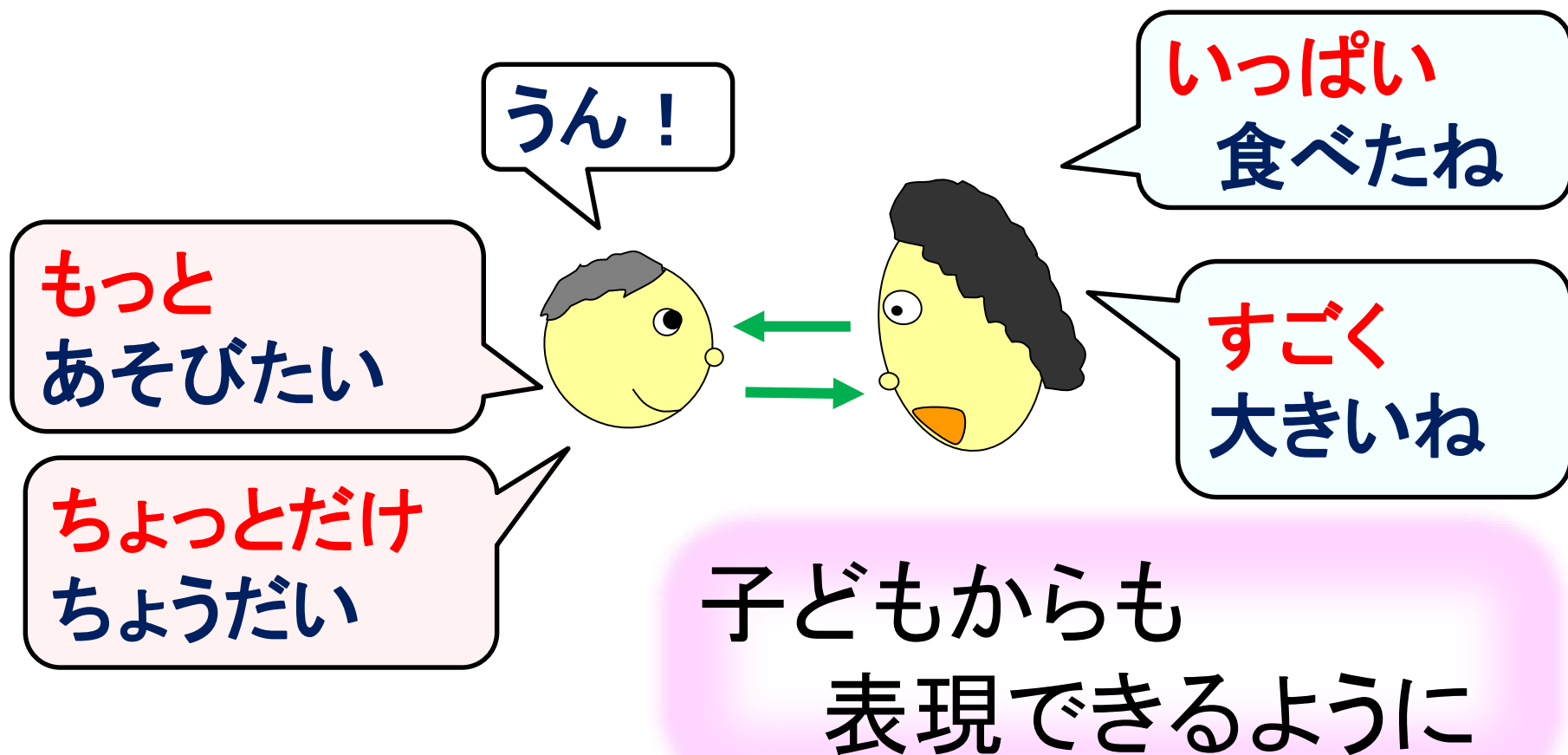


程度の副詞は、数の基盤

* 数を覚える前に子どもはこれらの副詞を使い始めている

👉 「副詞の発達」

会話の中で、程度の副詞に、
たくさん触れる機会を持とう！

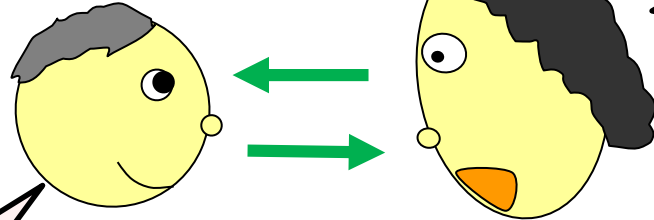


そして

動作的指示と組み合わせる

もっと
あそぼうよ！

ちょっとだけ
食べて！



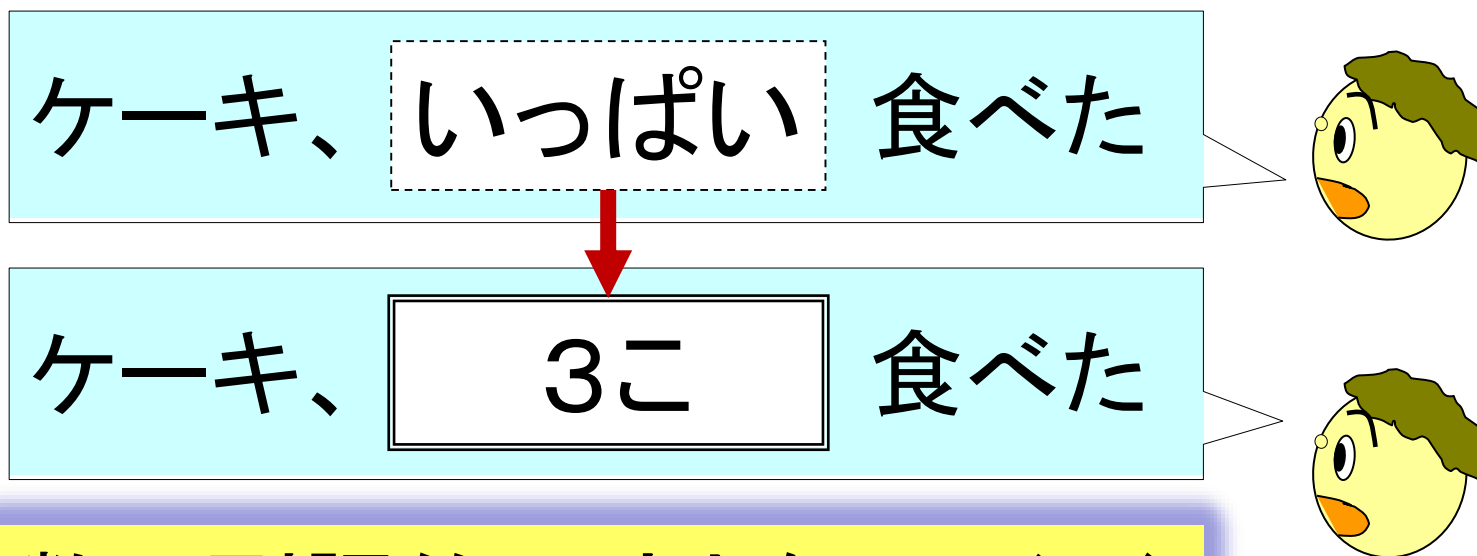
ゆっくり
歩いて！

たくさん
描いて！

相手を動かす指示として
子どもからも表現できるように

そして程度の副詞は・・・

その位置に、数を置き換えることにより

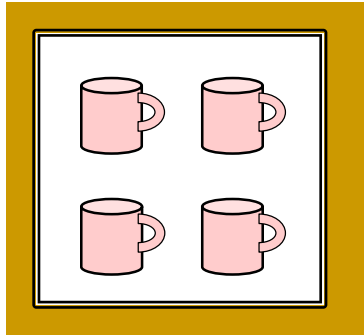


数の副詞的用法となっていく

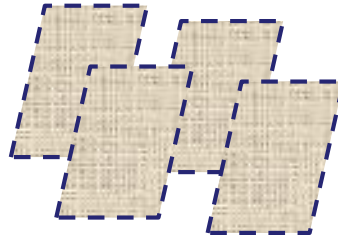
注) 程度の副詞の習得は、文章題理解の基盤ではあるが、状況のアナログな捉え方や表現が苦手な子どもも多い。その場合は、次の「数の具体的操作」の方が学習を進めやすいかもしれない。

そして..

● 数量を扱う動作を経験させる



コップ、**2個**
出して！



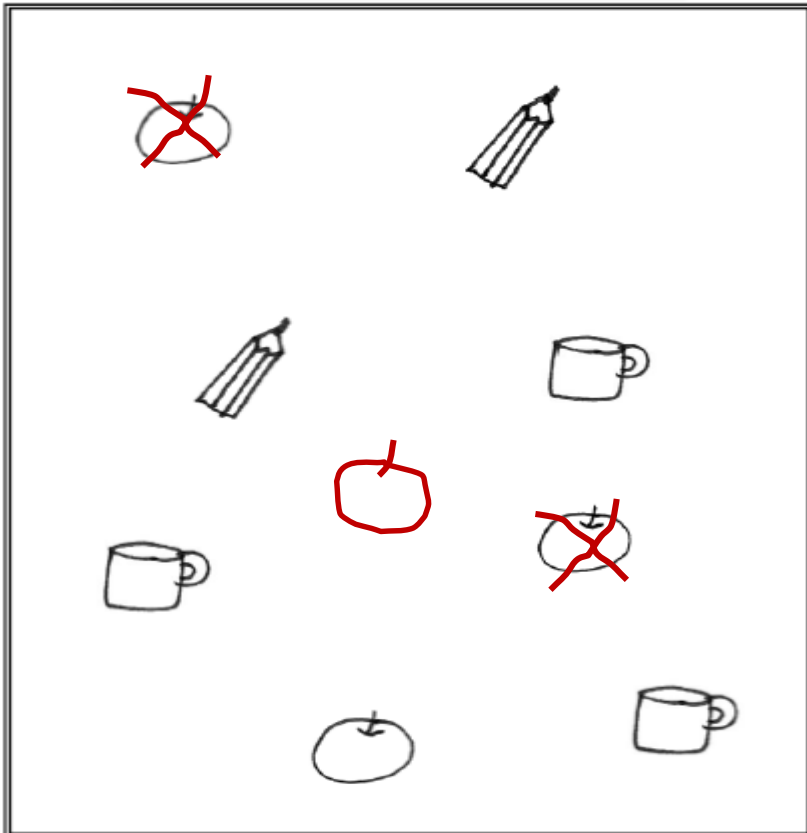
タオル、**3枚**
たたんで！

日常のお手伝いや遊びの中で、
数の副詞的働きは理解されて行く

そして文章題へ

算数文章題準備ワーク

増減操作問題



リンゴを、**1個**、
描いてください

リンゴを×で**2個**、
消してください



「消す・描く」という
行為の中で数を扱う

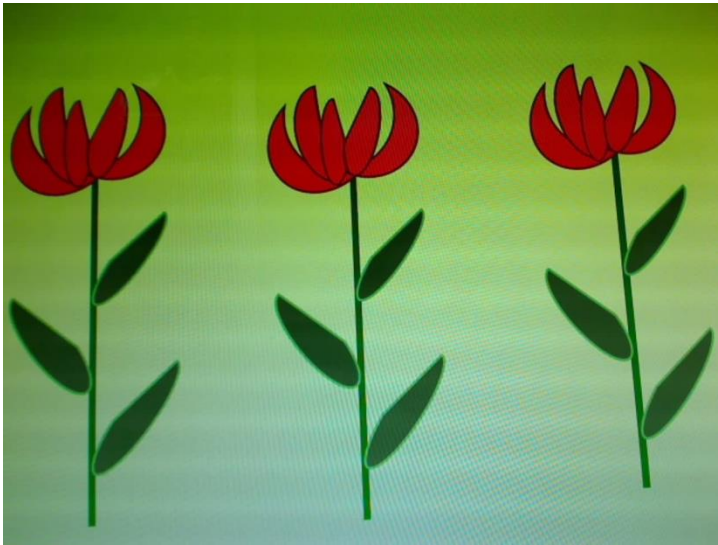


副詞としての
数の理解を進める

10秒映画 第2集

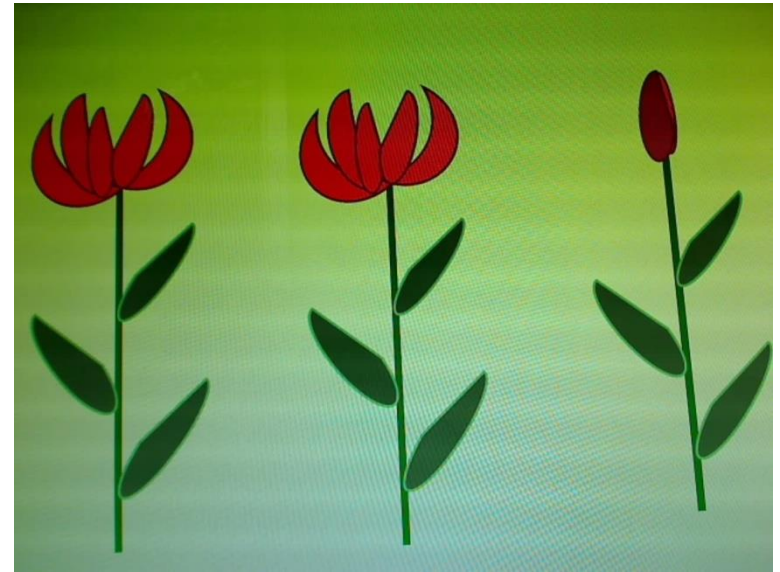
* 数の増減映像

★花(減少)



お花が、3つ、さいていました。
でも、1つ、ちってしまいました。
お花は、2つになりました。

★花(増加)



お花が、2つ、咲いていました。
また、1つ、咲きました。
お花は、3つになりました。

数の増減の文章化練習

そして、つぎの問題が・・・

副詞のことばの意味の難しさ

「**せっかく**、教えてあげたのに」

「**やっぱり**、だめだったか・・・」

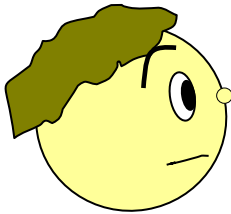
これらの副詞の意味は
どのように学ばれて行くのだろうか

気持ちを表す副詞「**やっと**」を例として
その習得を考えてみたい

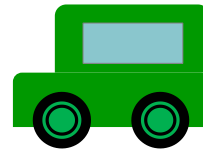
副詞「やっと」の習得

やっと？

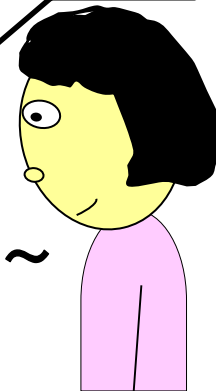
弟の
ショウ君



工作、**やっと**出来たよ～



フ～



お姉ちゃん

「やっと」ということばは、
どのように習得されるのだろうか

それを、[ミーニングとセンス]ということばを
通して考えてみたい

ミーニングとセンス

* ことばの持つ2つの意味

ミーニングとセンスは、ことばというものを
捉えるための考え方・用語

いくつかの解釈があるが、ここでは・・

ミーニング

* ことばの一般的な**意味**

辞書に書いてあるようなこと？

センス

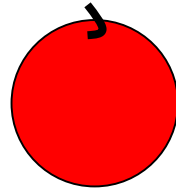
* ことばに対する自分なりの**意味**

自分の経験・嗜好・知識・イメージ etc

とする

ミーニングとセンスの関係

ミーニング



センス

一般的な意味

例えば「角川国語辞典」には

【果物の木のひとつ。春に白い花が咲き、秋頃に実がなる。実は食用になり、寒い地方で作られる。種類が多い】

りんご

[riNngo]

記号

その人なりの意味

うちはリンゴ農家
なんだけど、実は
ぼく、リンゴ好き
じゃないんだ



けん君

まず..

ミーニングについて

ミーニングは、そのことばについて
みんなが一般的に知っていること

では 辞書に書いてあるようなこと？

でも..

辞書に書いてあるようなことを
私たちは、全部知っているだろうか？

ミーニングは、その言語を使う人たちの社会的概念 = 常識

リンゴ だったら

果物。色は赤くて形は丸い。ツルツルしている。冬に食べる。味は甘酸っぱい。英語はアップル。ジャムとかパイにする

この辺りが、日本人のミーニングでは？
そして…

この辺りのミーニングが共有されていないと
会話にならない

つぎに

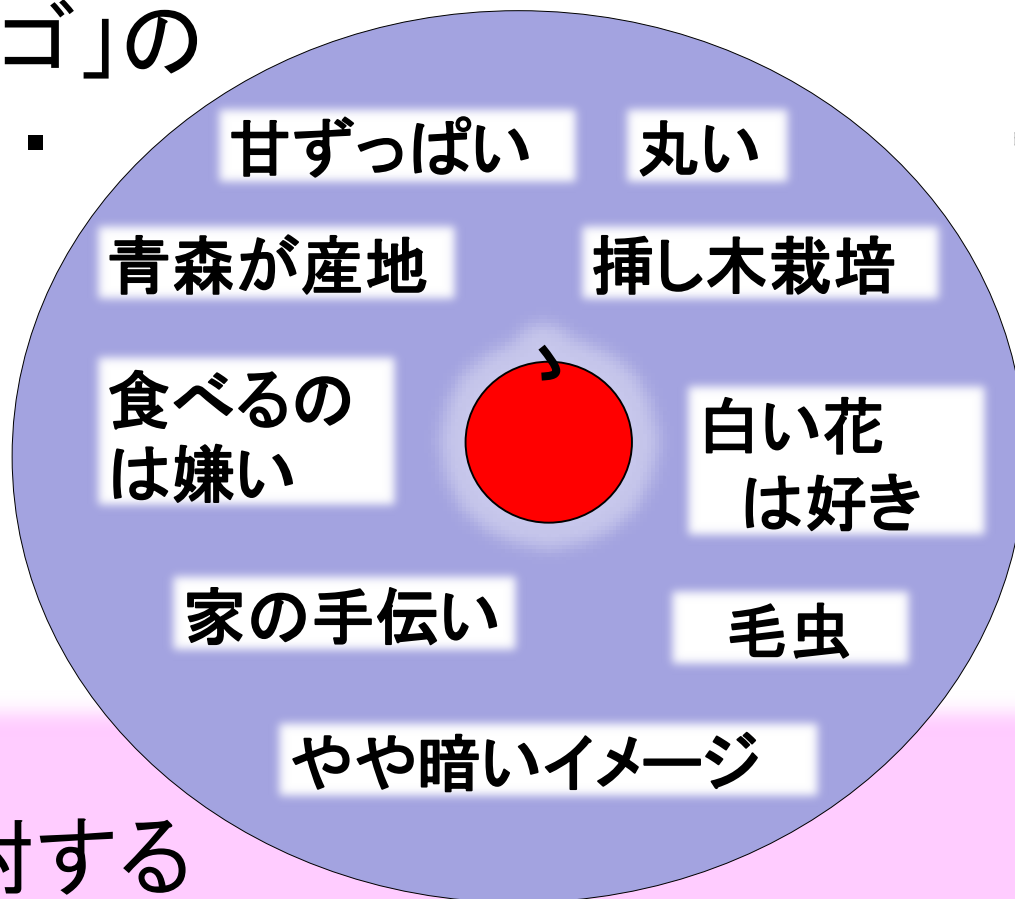
センスについて

センスは、そのことばについての
その人なりの意味

だから

ことばについてのセンスは
ひとりひとり、違っている

たとえば、リンゴ農家の息子の
けん君の「リンゴ」の
センスは・・・



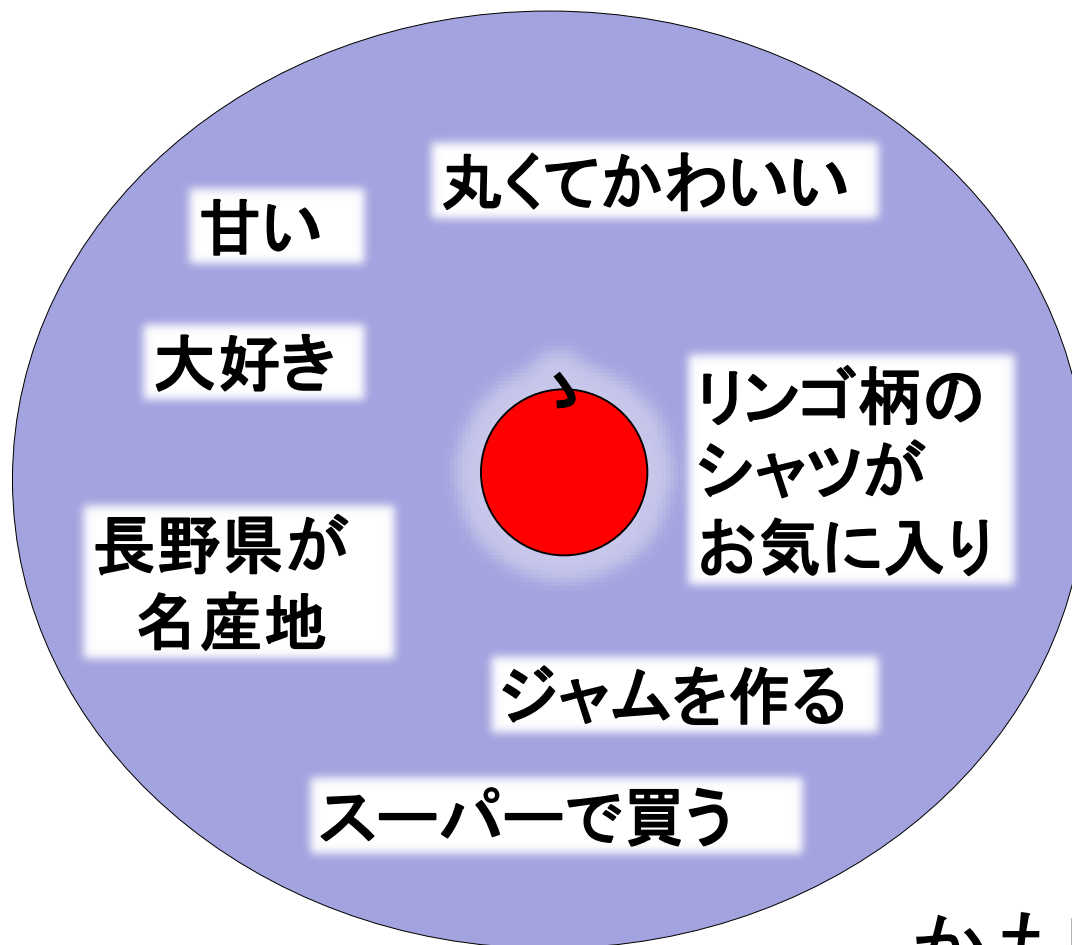
けん君

センスは、
そのことばに対する

その人の知識や個人的経験、好み、環境、
また、そのときどきの状況や気持ち etc.

などの心理的集合体

でも、ふみさんの「リンゴ」のセンスは・・・



かもしれない

ふみさんとケン君のリンゴについてのやりとりは・・・

[riNngo]という共通の記号で伝達され

リンゴ大好き！



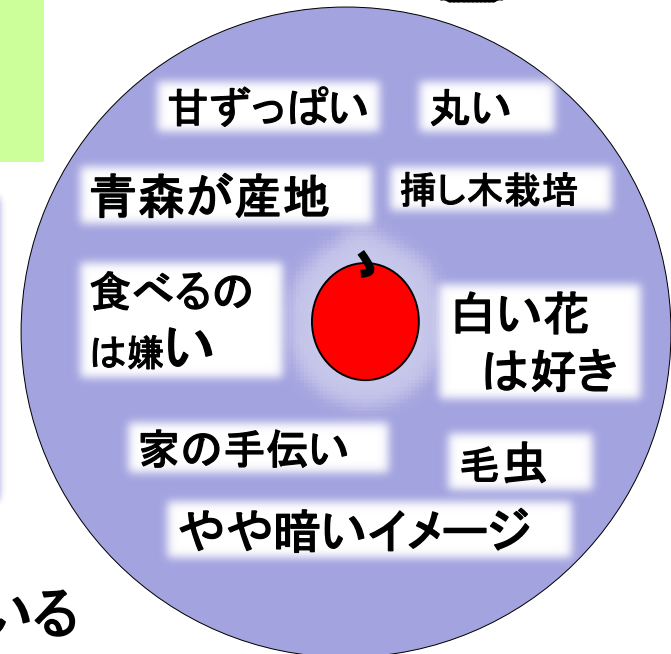
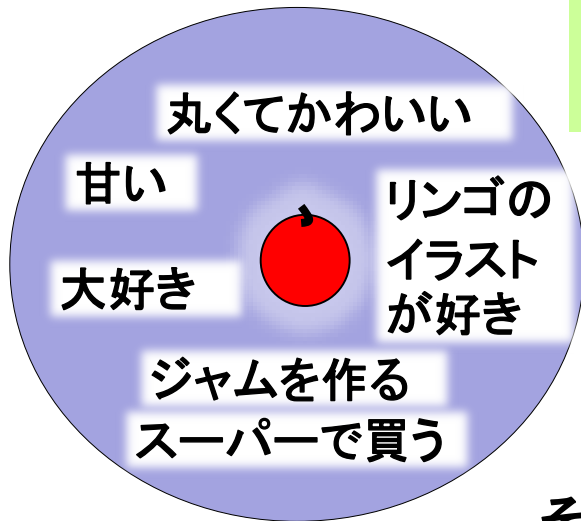
どの品種が？



[リンゴ]のミーニング
によって、お互いに
理解されるが

受け止めるのは
それぞれに
異なるセンス

それぞれの「リンゴ」を
思い描きながらやりとりしている



だから、わたしたちのコミュニケーションには・・

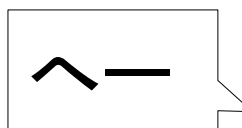
つねに、ズレがある

たとえば・・

食べたパンのことを、いくら細かく説明されても
まったく同じパンが伝わることはない



こんなおいしい
パン食べたんだよ



だから、センスのズレは・・・

ときに受け止め方の違いや、誤解を生む

でも、それが・・・

人間のことばのコミュニケーション

もし、ズレのない記号とミーニングだけの
コミュニケーションがあるとすれば、

それは、危険を知らせる動物の鳴き声のような
ある種の信号や警報のようなもの

人間のことは信号や警報ではない

人間のことは 象徴

そこに、さまざまな想像をし、
自分なりのイメージを描く

こんなパンかなあ..



共通の記号と、ミーニングを入り口として
そこから、自分なりの意味
=センスの世界に入っていく

わたしたちは、人の話を聞いたり
物語を読んだり、映画を観たりする

それに意義を見いだせるのは

話しや、物語を、
楽しんだり、
考えさせられたり..

自分なりの意味＝センス で受け止め

そこに様々なイメージを宿らせ、
想像を巡らすことができるから

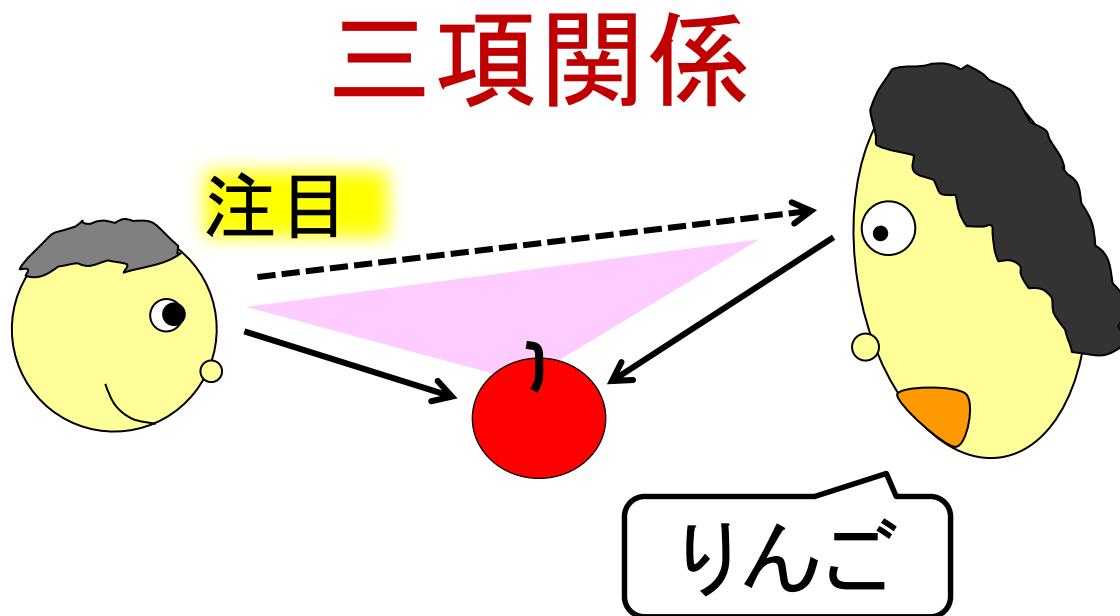
人間の文化は、まったく同じにはわかり
合えない、ことばの本質からできている

では、ミーニングとセンスは、子どものなかで
どのように育っていくのだろうか？

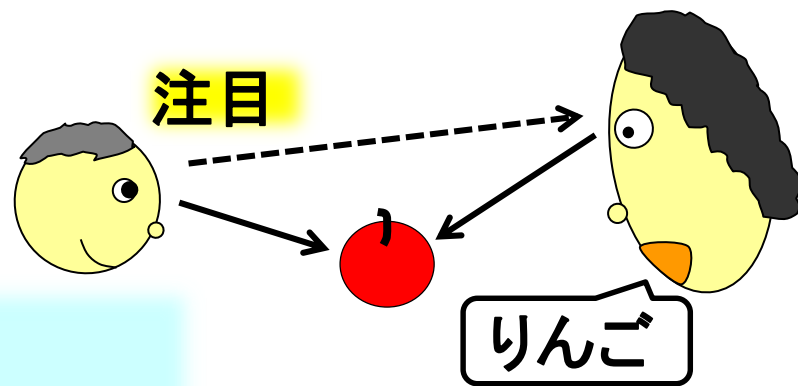
モノの名前のセンス の場合

まず、ことば(記号)を覚える

これは
「りんご」



でも、このときはまだ、ラベル的名称に
過ぎないことが多い



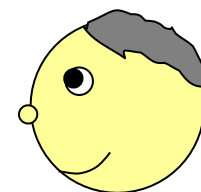
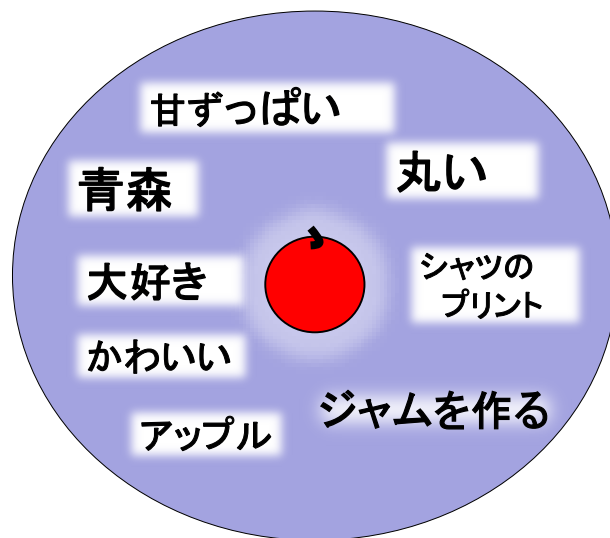
ラベル的名称の時期は
ミーニングの理解が不十分

そしてまた、センスも貧弱

りんごについての経験も知識も乏しい

この頃のりんごは、まだ想像の熟していないりんご
でも・・・

でも、リンゴについての
経験や知識が増えるにつれ・・・



リンゴのセンスは、少しずつ広がって行き

また、ミーニングも、

大人同士のものに近づいて行く

センスの拡大は、2つの側面を持っている

ミーニング
(常識的な意味)
への接近

より常識的な
「リンゴ」の形成

実用的なコミュニ
ケーションを作る

少しずつ

名詞「リンゴ」は、実用的かつ想像的なことばに育って行く

センス
(自分なりの意味)
の充実・個性化

自分の「リンゴ」
の形成

想像的なコミュニ
ケーションを作る

そして、副詞にも

ミーニングとセンスがある

ミーニングとセンスの観点から

副詞「**やっと**」の習得を考えてみる



まず… ミーニング

「やっと」を辞書で引くと…

【やっと】 ようやく。どうにかこうにか。 チャレンジ学習国語辞典

【やっと】 どうにかこうにか。かろうじて。 角川国語辞典

これではわからない！ → 辞書の持つ
言い換え問題 それにしても「やっと」
を辞書で引く日本人
がいるだろうか？

そこで、**基礎日本語辞典**を引くと

【やっと】 その人の能力や、その場合に可能な、最大限の力を発揮して困難な状況を克服し、どうにか実現する状態

これだ！ でも、ずいぶん抽象的で難解。

そうか 「やっと」は抽象的なことば。

つぎに

センス

は..

「やっと」はリンゴのようなモノではなく
抽象的な、コトのことば

だから

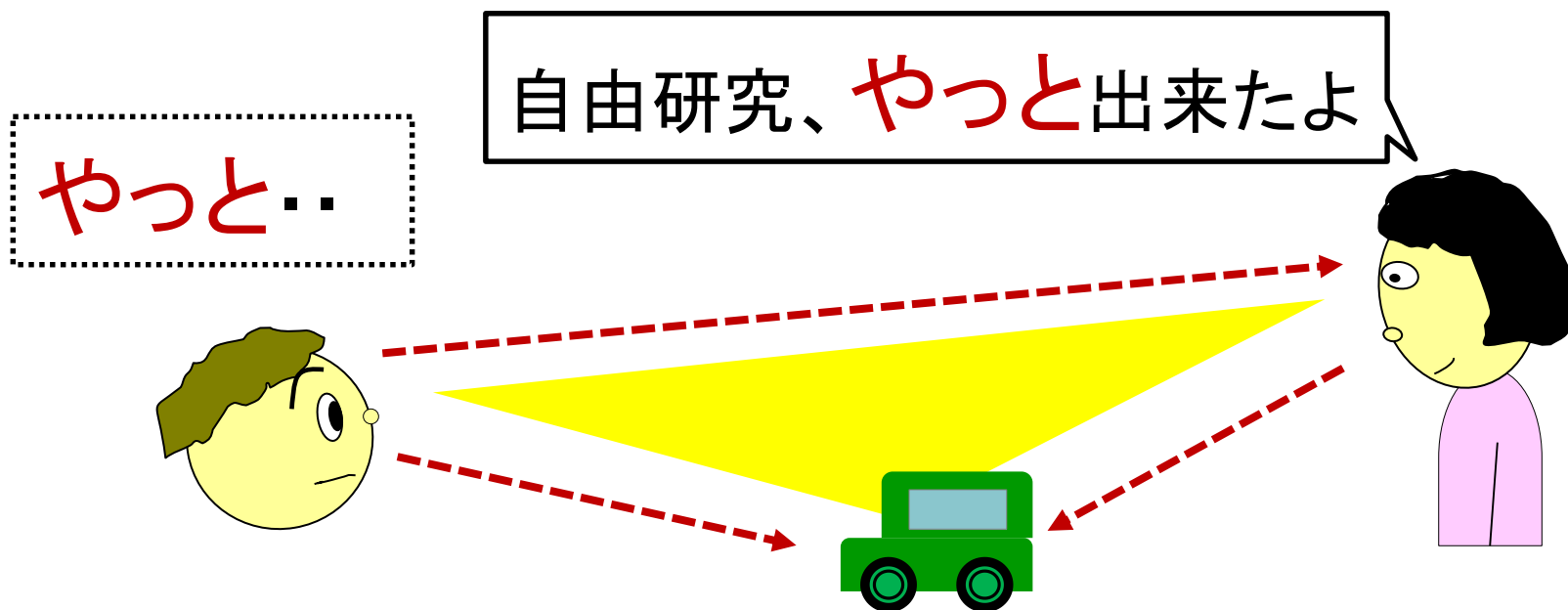
自分自身の、苦勞して何かが
実現したという出来事(経験)

それと

そのときの自分の気持ち

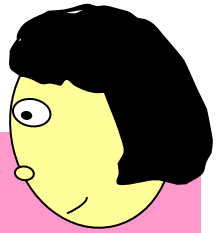
きっと、これがセンスだろう

では、「やっと」のミーニングとセンスは
どのように作られて行くのだろうか



「やっと」は、事物名詞「リンゴ」のときのような
“今・ここ”の三項関係ではわからない

「やっと」が使われるまで



夏休みに工作の宿題が出た

2週間前から作り始めた

でも、なかなかうまく出来ない

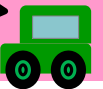
明日で夏休みが終わる

そして..

そして、今日、完成した

「**やっと**」は
これらを
すべて
包み込んで
いる

やっと出来た

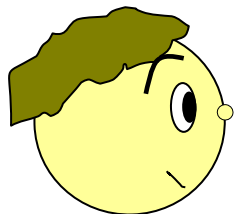


つまり・・・「やっと」は

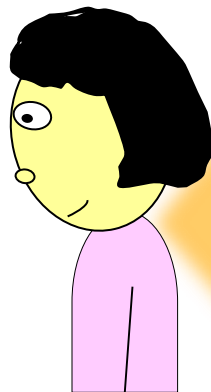
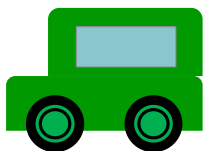
モノではない、コトの**集合体**

- 実現までのさまざまな経緯
- その人の心に生まれた気持ち

ふーん・・・



やっと出来た



ずっと前から作っていた。
うまく行かず困っていた。
でも、今日完成した。
明日から新学期。
間に合って良かった。
苦労した甲斐があった。
みんな驚くかな・・・

「やっと」はこんなものを、包んでいる

では・・・もし

このやりとりで、「やっと」ということばを
しょう君が、覚えることができるとするなら
しょう君の方では、どんなことが必要か。

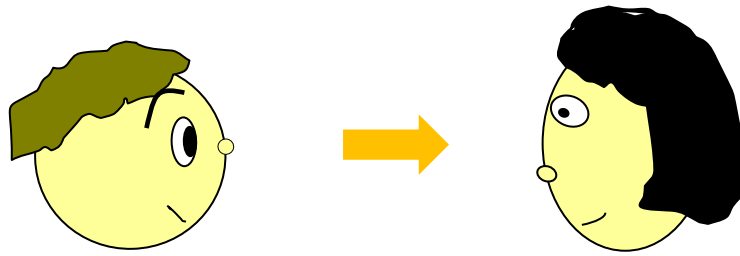
それはたぶん

文脈の理解

と

共感

だと思われる



文脈の理解

お姉ちゃんの、工作の作り始めから完成までの経緯を知っている(理解している)

共感

やっと完成した、お姉ちゃんの嬉しさや達成感、安堵感、などが感じられる

でも、それだけでは足りない
そこに

同じような自分の経験と気持ち



やっと的经验

つまり

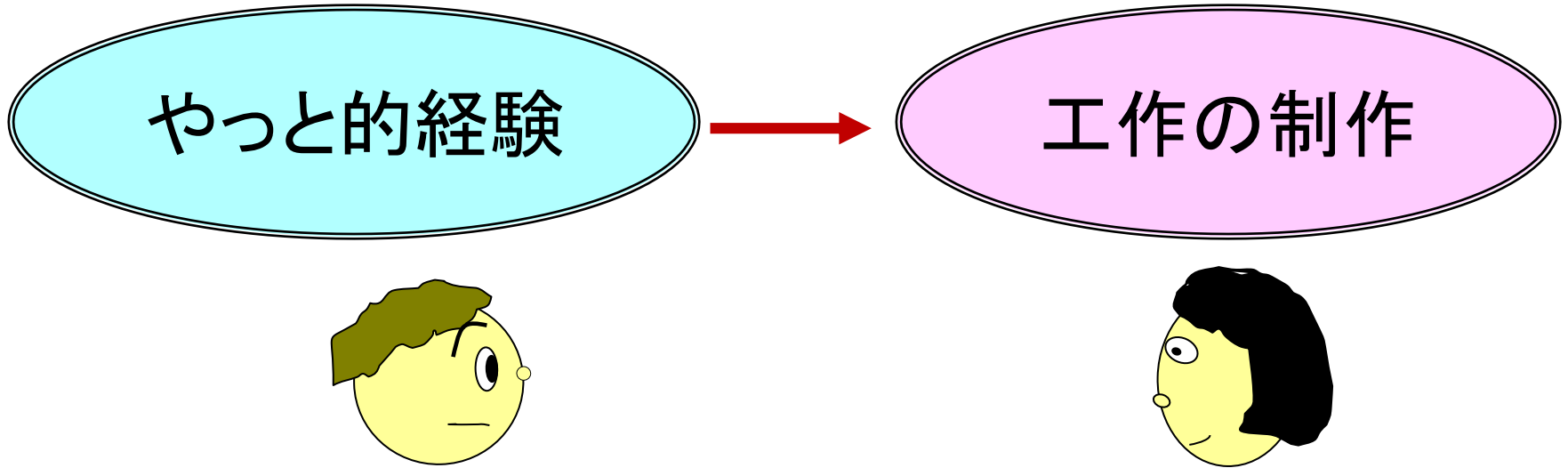
「やっと」のセンス

自分なりの
「やっと」

を、重ねて行かなければ

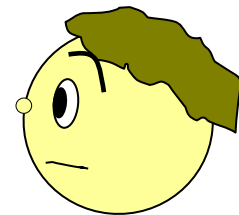
「やっと」は、わからない

自分と相手を重ね合わせる



自分のやっと的経験を、相手の経験と、
重ね合わせることによって、
文脈の理解と共感が生まれ、
そして「やっと」の理解が生まれる

もちろん、やっとの経験は、
同じ工作である必要はない



砂場で崩れるのを直しながら山を作ったこと

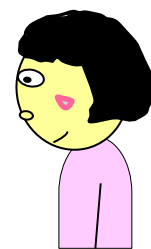
でもいいし、

暑い日、遠足で、1時間かけて公園に行ったこと

でもいい。

苦労の末、何かが実現した、という
自分の経験があれば、

他者のやっとの経験の状況と気持ちを、



「想像」することができる

つまり・・・「やっ」とは想像することば

「リンゴ」のような名詞とは、そこが違う
「リンゴ」が、少しずつ想像的になって行くのに対して

「やっ」とは、最初から想像力がなければ
身につけることができない
だから

「やっ」とは、使えるようになったときには
もう、熟している
「やっ」との ツルツルことばはない



基礎日本語辞典の難解な定義を、子どもはマスターしている

だから、「やっと」が使えるということは、

それは発達のための大切な礎石が
できているということ

その礎石とはどんなものか

出来事の中の空間や時間、
因果関係を理解できること

文脈

自分と他者を重ね合わせ、
気持ちや状況を理解できること

共感

副詞は身につく、ということ自体が大切なこと

そして・・・

出来事には、空間と時間、プロセス、がある
それを、他者の視座に立ち、理解し共感する

？これは何かの仕組みと似ている・・・**「物語り」**だ
語りと読解

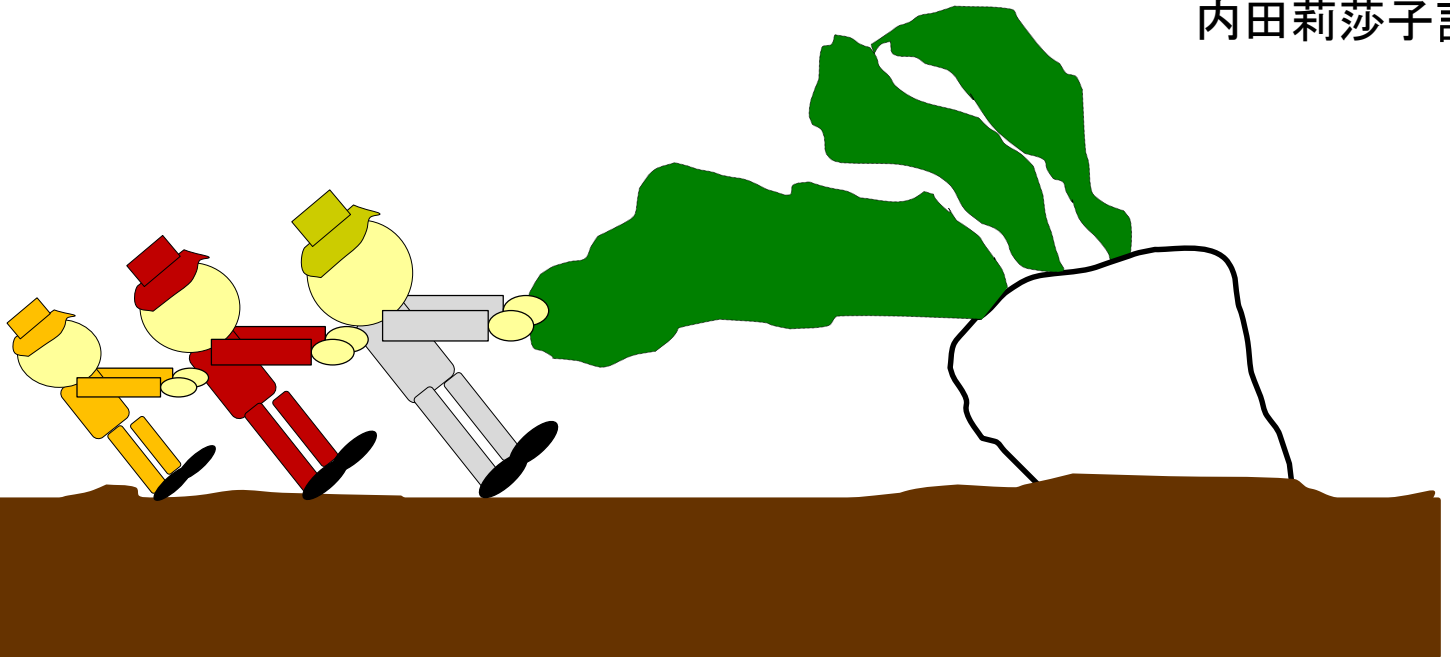
「やっと」の理解は、
ひとつの「物語り」の理解

そう考えると「やっと」を身につけていく上では、

だれかの語りを聞いたり、
物語を読んだりすることも大切

おおきなかぶ ロシア民話

内田莉莎子訳



おじいさんが かぶを ひっぱって
おばあさんが かぶを ひっぱって
まごが かぶを ひっぱって …

かぶは
やっと
ぬけました

物語の経緯と登場人物の心理が「やっと」を実感させる

そして、このような物語りの基盤となるのが・・・

自分の経験をだれかと話すこと

共同
想起

おしゃべりは、「語り」に育ち、
「語り」が、作文や読解につながって行くが

その中で、子どもは、
相手と自分の重ね合わせのスキルを高め

「やっと」や「せっかく」や「まだ」や「もう」などの
本当はとても難しい、副詞を理解して行く

自分を相手に重ねて、
相手の視座でものを見ることができる
ということは、
それと同時に

自分自身も、他人と見立てて
外から客観的に見ることができる

ことでもある

つまり

人と重なることは、自分と離れること

自分を離れる

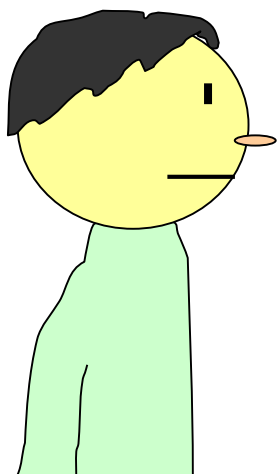
自分自身について客観的に判断すること

自己洞察

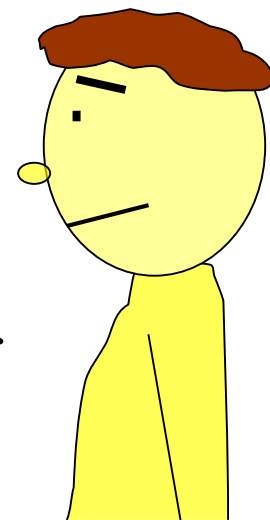
自己洞察は、社会で人とやりとりし
活動して行くために不可欠なもの

その自己洞察を、相手に伝達するために
大切な役割を果たすのが

程度を表現する副詞



ツトム君、3時までに、
30個、箱を
組み立てられる？



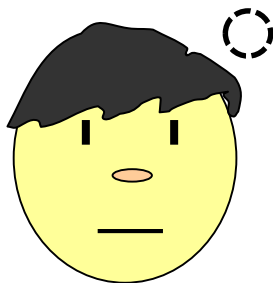
このような場面では、
相手に誤解を与えない応答が必要

できるのか、できないのか、
はっきりとわからないのか

私たちは、明確なYes-Noで
答えられないときどうするか？



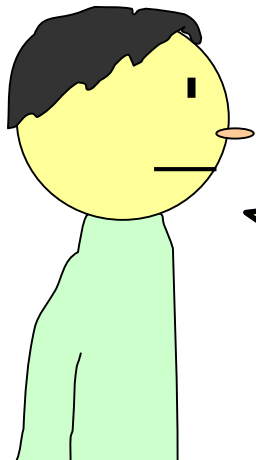
自分の応答(判断)に、
それに対する**確実度**を添える



できる確率は・・・
50%くらいだろうか

確実度を伝えることは、なぜ大切か

私たちは、
受け取る情報の確実さで
自分の行動を決めている



はい！
できます

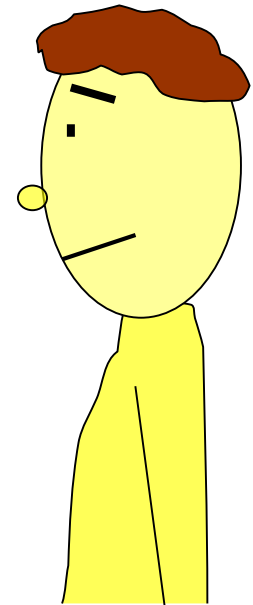


自信あるんだな。
じゃあ、一人で、や
っていてもらおう

たぶん、
できます

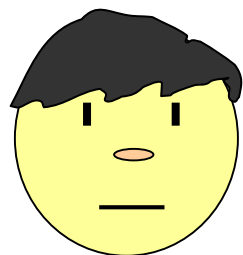


ちょっと不安だな。
ときどき様子を、
見に行ってみよう。



確実度は、%では表現しない だから

さまざまな言語表現を使うことになる



できると思う

できるかも
しれない

できるんじゃないかなあ

できるはず

これらとともに、**量や推測の程度**の
表現として、副詞が必要になって来る

確実度を表す副詞

量の程度の副詞

ぜんぶ

ほとんど

かなり

あまり

たいして

予測度の副詞

絶対 必ず

きっと

だいたい

たぶん

はっきり ~ない

もしかしたら



100
%

確
実
度

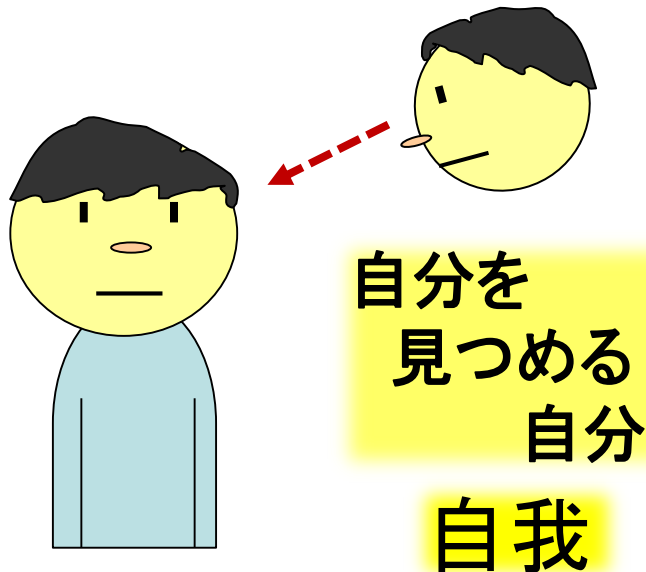


50
%

程度の副詞が使えるためには

自分の能力・知識・経験etc に対して

自分を客観的に見つめる、もう一人の自分が
育っていなければならない

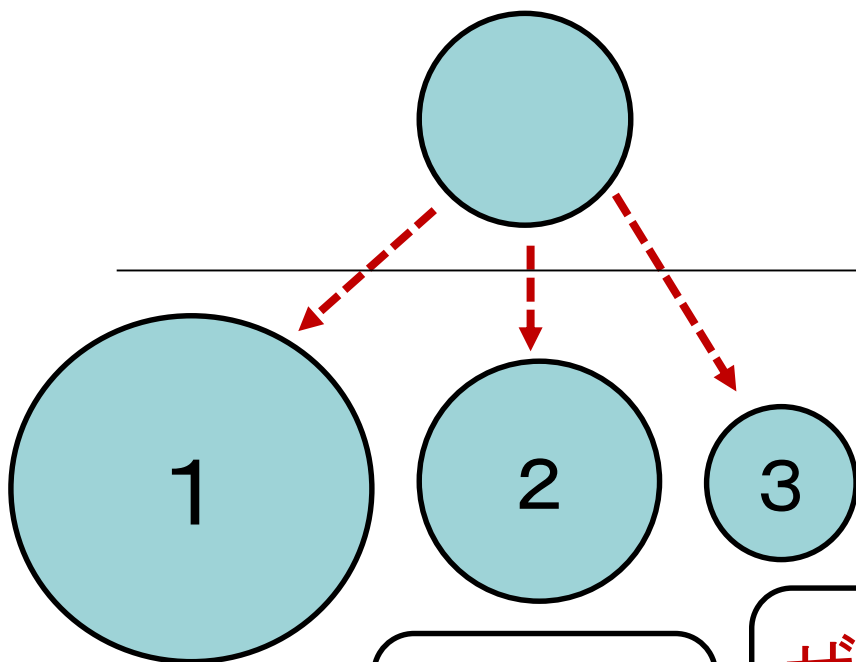


「たぶん」や「ぜったい」が
★使えるようになること。
★使えるようにさせること。

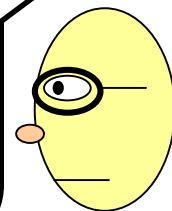
★自我が育っていること

★自我を育てること

「ぜったい」or「たぶん」の練習課題



これより、大きいかな、
小さいかな。
「ぜったい」か「たぶん」
を使って、言ってみよう



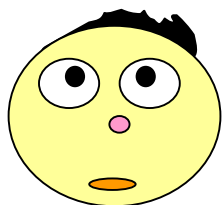
ぜったい
大きいよ

たぶん
大きいよ

ぜったい
小さいよ

ぜったい

たぶん



副詞の学習課題

文作成や語句補充の課題

「ずっと」の使いかた

- ① あの服より、こっちの服のほうが、ずっと、(**かわいいよ**)。
- ② ライオンより、ゾウのほうが、ずっと()。
- ③ おそいよー。さっきから、ずっと、(**まっていたんだよ**)。
- ④ あのおじさん、ぐあいかわるいのかなあ？
さっきから、ずっと、()。
- ⑤ ああ、くたびれた。ずっと()から、足がいたくなかったよ。
- ⑥ 「このふでばこ、いつ買ったの？」
「もう、ずっと、前だから(**わすれちゃった**)」
- ⑦ ずっと()、あるところに、びんぼうなおじいさんが いました。

ことばのテーブル

* このような課題は難しすぎて効果的ではない印象がある

オノマトペの学習課題

オノマトペを つなげよう1

てくてく

あるく

なく

ひっぱる

めくる

ぺらぺら

ぐいぐい

てくてく

わんわん

動詞に対応する
オノマトペを選ぶ

目的としては・・・

オノマトペに対する
気づきを促す

慣用表現として
典型的なものを覚える

ゾウはのしのし

ゾウが、いつも、のしのし歩いている
わけではないが・・・

会話の文脈での練習

会話練習 59:かくしてたマンガ

テーマ

やっぱり~



みき	ねえ、おにいちゃん。ここにあった、マンガ知らない？
ひろし	え？ …知らないよ。
みき	ほんと？ おかしいなあ。さっき、おいといたのになあ…
ひろし	..お母さんが、かたづけたんじゃない？
みき	うーん..あれ？ おにいちゃん、うしろに何もってるの？
ひろし	えっ！ な、何にもないよ！
みき	うそ…あ、やっぱり、かくしてたんだ。
ひろし	えへへ…やっぱり ばれちゃった？ ごめんね。
みき	しょうがないなあ。あとで、ちゃんと返してね。

会話練習ワーク

ロールプレイによる役割練習

他者の立場に立つ



状況や気持ちを認識しやすい

練習

ことば

●やっぱり~

れい) たけしくんは算数がとくい。テストは…
→やっぱり、(100点だった。)

・けんくんは足がはやい。100メートル走は…
→

かたづける

かくす

返す

ことばのテーブル

程度や状況の副詞をテーマとした会話

会話練習 78: ジュース

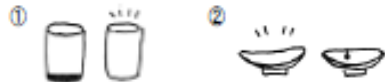
テーマ **ほとんどない / ぜんぜんない**



ひろし	あー、このジュース、おいしいなあ。
みき	いいなあ、おにいちゃん。わたしにも、ちょっと、ちょうだい。
ひろし	え？ もう ほとんどないよ 。
みき	うーん、それでもいいから、ちょうだいよ。
ひろし	じゃあ…はい。
みき	……あー、 ぜんぜんない ちゃん。
ひろし	え？ あ、そうだった？
みき	もー、おにいちゃんの、うそつき。

練習

- ほとんどない = ちょっとは ある
- ぜんぜんない = ゼロ(からっぽ)
- ※どっちの**ことば**を、使いますか？



ことば

おいしい	↔	まずい
もう～		
うそつき		

ことばのテーブル

会話練習 6: お手伝い

テーマ **「もういい？」 / 「まだ」「もういいよ」**



お母さん	ひろしくん、テーブルふくから、その本 も ってくれる？
ひろし	え…いいよ。
お母さん	ありがとう。いま、ふくね。
ひろし	… もういい？
お母さん	まだ 。もうちょっと。
ひろし	… もういい？
お母さん	まだだよー あとちょっと。
ひろし	おもうよー もういい？
お母さん	はい、 もういいよ 。ごろうさま。

*** 実際に、小道具を使ってお芝居をしながら、やりとりすると、ことばの理解が進み易い**

練習

- もういい？→まだ/もういいよ
- ※つぎの動作でやってみよう。
- れい[目をつぶっている]
- もういい？→ **まだ** → **もういい？** → **もういいよ**。
- ・[右手を上にあげている] ・[イスの横に立っている]

ことば

ふく	ぞうきんで～ / タオルで～	
おもう	↔	かるい

ことばのテーブル

映像教材での練習

10秒映画

副詞学習としての 意義・利点

● 音や様子に実際に触れることができる

● 出来事のプロセスの中で、副詞に触れることができる



■車 ■本 ■ドングリ ■カード ■星 ■アヒル
■怪獣 ■タオル ■図形 ■折り紙 ■ピストル ■
■数字 ■マメ ■四角 ■けむり ■新聞紙 ■

■箸ち葉 ■手品 ■目覚まし時計 ■コップ ■星 ■輪っか ■電話とサイコロ
■ケーキ ■マル ■紙飛行機 ■アヒル ■ペットボトル ■ボタン ■スタンプ
■赤い玉 ■ハートの箱 ■タイコ ■カレンダー ■おひげ ■紙くず
■空き缶と葉っぱ ■ミカン ■ボールすくい ■紙コップ ☆その他 数の増減映像18種



葛西ことばのテ
kkt-00110 定価 1,575



葛西ことばのテ
kkt-00210 定価 1,700円(税込)

オノマトペの学習

「オバケ」



ドアを**ギギー**と開けました。
ドアを**バタン**と閉めました。

擬音語のオノマトペ

「風車」



手で**パタパタ**あおぎました。
風車が**クルクル**回り出しました。
擬態語のオノマトペ

現実の音や状況を言語化(オノマトペ)する

副詞や様子を表すもの

気持ちや程度の副詞の学習

「新聞」



新聞は、**とうとう**、破れて
しまいました。

「時計」



今度は、逆さまにして置くと
音が**やっと**止まりました。

出来事のプロセスを辿ることで、
「とうとう」等の副詞の表すものに気づく

読解問題での学習

続・おはなし読解ワーク初級編

テーマ:オノマトペ

3
もう

2
どこ

1
なに

①ほし

きらきら

ほしが ひかっている。

よるの そらで ひとつ、

きらきら ほしが ひかっている。

あ、もう ひとつ みつけた。



②みず

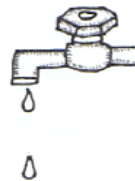
ぽたぽた

みずが たれている。

すいどうの じゃぐちから、

ぽたぽた みずが たれている。

あ、おかあさんが とめた。



物語には、
文脈と気持ちがある

3
だれが とめたの？



2
どこから たれているの？

1
なにが たれているの？

続・おはなし読解ワーク初級編

テーマ:

数の副詞的用法

<p>3 ねこは なんびき になったの？</p> <p>2 また なんびき きたの？</p> <p>1 ねこが なんびき いたの？</p>	<p>3 お</p> <p>2 で</p> <p>1 おにぎりが いくつ あったの？</p> <p>いくつかな②</p> <p>ねこが 3びき いた。</p> <p>また 2に ひき きた。</p> <p>ねこは 5ひき になった。</p> 	<p>いくつかな①</p> <p>おにぎりが みつつ あった。</p> <p>でも ひとつ たべちゃった。</p> <p>おにぎりは ふたつに なった。</p> 
--	---	--

算数文章題を解くためには、まず数量の文の読解が出来なければならない

疑問詞の副詞の学習

疑問文練習ワーク

いつも 質問のことばに○をつけよう③

げつようび こうてい たなかくん
月曜日に、校庭で、田中君と、てつぼうを、した

いつ、だれとどこでなにを しましたか?

てつぼうを しました

いつ、だれとどこでなにを しましたか?

げつようび 月曜日に

しました

青木先生

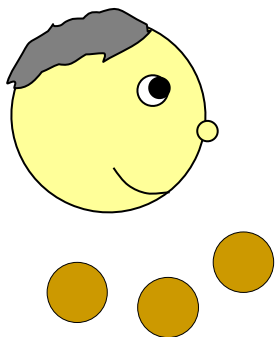
島田君

* 疑問文を作る際に、「いつに」のように助詞をつけてしまう誤りも多い

生活の中での副詞の学習

まずは **子どもといっしょ**にしたことや、見たものを

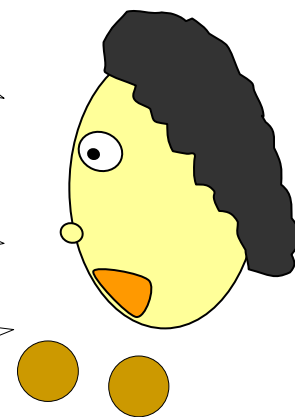
副詞のことばで表そう



やっとできたね～

コロコロしてるね

どんどん作って！



共有する状況や気持ちが
重ね合わせのことば＝副詞の習得 を促す

いっしょに様子を観察することの大切さ

それから・・・

生活の中で大切だと思われること

子どもの中に

● 数と時間を作る ● 疑問を作る

● 推測・予測を作る ● 自己洞察を作る

子どもといっしょに

● 経験を語り合う ● 物語を楽しむ

より詳しく、より豊かに表現して、
会話を楽しみたいという気持ちを、
子どもに 持ってほしい

自分の科学

「自分の科学」とは・・・

林丈二さんという人について、
その人をよく知る仲間たちが、
林さんの活動に対して名づけたことば

林丈二(1947～)イラストレーター
様々なものの収集家・調査家?として知られる

【収集及び調査したもの】

マンホール、パチンコ玉の模様、電車の切符の切り屑、
靴底に挟まった小石、町にいる猫、電信柱、コーヒーの
サービス、パリの通りの犬の糞、アイスの当りくじ etc.

林丈二さんは、それらの収集や調査を

だれに頼まれたわけでもなく、

自分の楽しみとして行っていた

その活動の中で林さんは

世の中の物事の多様性に驚き、感嘆し、

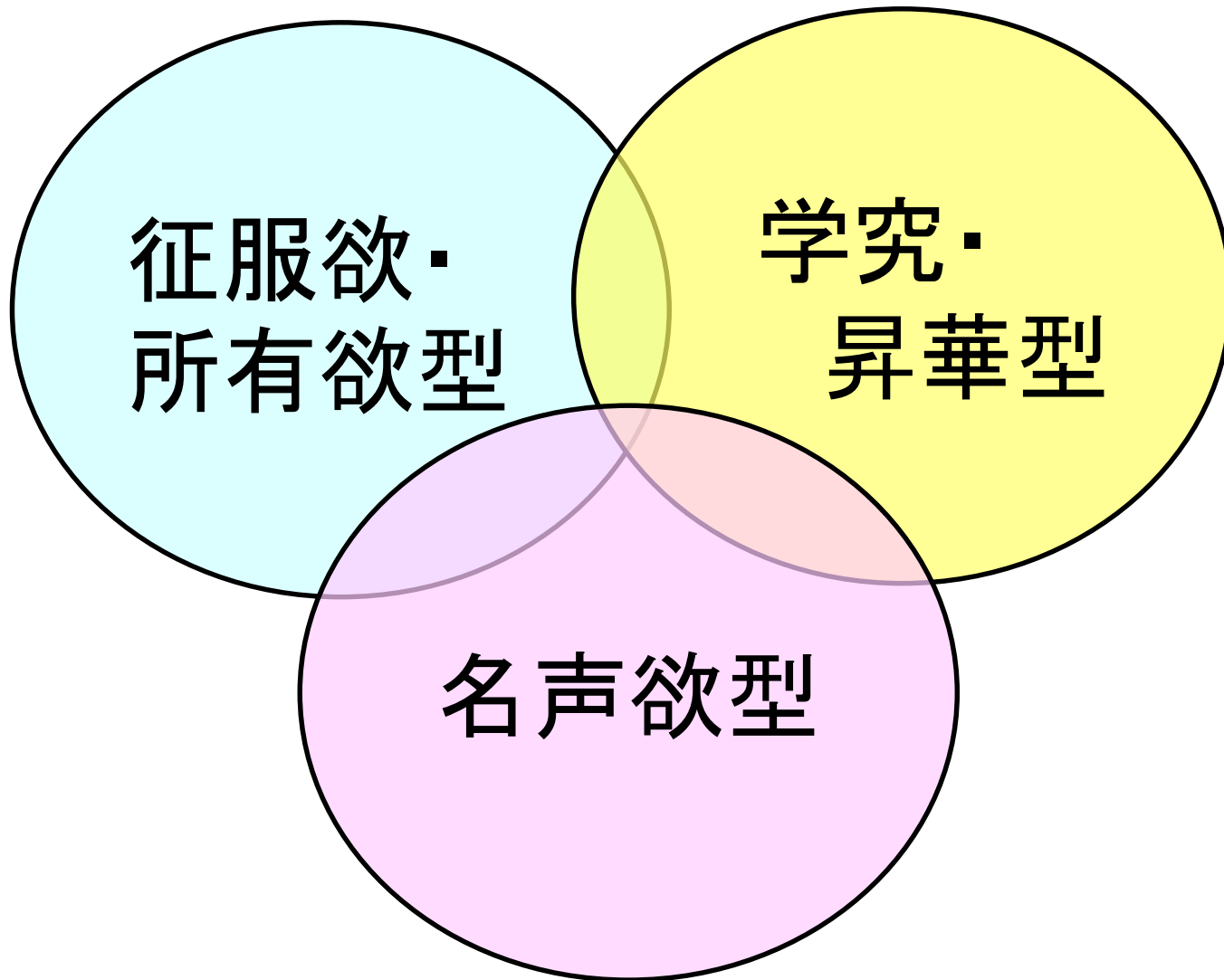
その多様なものの収集・分類に励み

ときにはそこに、体系や法則を見出していた

そして自分が発見したことを

ときどき、みんなに伝えていた

ところで収集家(コレクター)には、
いくつかのタイプがあると言われるが



林さんの収集や調査は・・・

自分の科学 型

「自分の科学」とは・・・

自分による、自分のための
自分の中に築いて行く科学

* 誰のためでもない自分の楽しみ・喜びの科学

自分の科学の特徴

- 本来、社会貢献の目的はない 社会に役立つこともある
- 自分にとっては価値があるが、他人にとっては無価値なこともある
- 自分の中での分類や、体系化、ときに理論化がなされているが
- 客観性や科学性に乏しいこともある

一方、科学ということで

「自分の科学」と対になるのが..

みんなの科学

みんなによる、みんなのための
みんなで築いて行く、大切な科学

* みんなの科学の特徴は、正しいことを、
正確なことばで伝え合わなければならない

一方、自分の科学は・・

基本、自分のためにやっているの

あまり厳密・完璧でなくてもいい

また、物を集めたり調べたり、研究したりしていると

もうそんなのは、とっくに他の人が、集めていたり
調べていたり、発見していた

ということがよくある

みんなの科学だと、そんなとき、がっかりしたり、
努力が無駄になってしまったりするが・・

自分の科学なら大丈夫

自分の中で、何かが築かれて行くことが重要

そして、自分自身はといえば・・

やっぱり
自分には

自分の科学

がいい

なぜ自分の科学がいいかというと

★ 何でも自由に勉強できるから

★ 自由な発想がしやすいから

どうして
自分が

自分の科学をするかということ

自分の中に

何かを見つける

発見の喜びのため

★ 新しい収集物を見つける

★ 新しい分類を見つける

★ 新しい法則を見つける

そしてもうひとつが

それらを誰かに伝える喜びのため

自分の科学だけどやっぱり人とも分かち合いたい

自分の科学で何がわかるか

何よりも

自分がわかる

自分の中に知識や理解の

地図が描かれて行く中で

自分は、何を知って来てまだ何を知らないか

自分は、どのように物事を捉えがちか

自分は、どんなものに価値を置いているか

というようなことを知ることができる

自分がわかるとはどういうことか
わたしたちは、自分を通してしか、
世界を見ることはできない
自分をよりよく知ることは

いま世の中を見ている、自分の
カメラの性能や機能を把握すること
その特徴や長所や限界を知ることが
自分の能力や置かれた状況を
最大限に生かすことに
つながるのではないかと思う

【参考・引用図書】

- 「なぜ人は書くのか」 認知科学選書16 東京大学出版会
- 「基礎日本語辞典」 角川書店
- 「ことばの誕生」 日本放送出版協会
- 「ことばと思考」 岩波新書
- 「ことばの発達の謎を解く」 ちくまプリマー新書
- 「犬は「びよ」と鳴いていた」 光文社新書
- 「宮澤賢治に聞く」 ネスコ／文藝春秋社
- 「子どもはことばをからだで覚える」 中公新書
- 「はじめて読む日本語の歴史」 ベレ出版
- 「動詞・形容詞・副詞の辞典」 東京堂出版
- 「絵でわかるぎおんご・ぎたいご」 アルク
- 「日本語をみがく小辞典〈形容詞・副詞編〉」 講談社現代新書
- 「独りで学べる日本語文法」 日本語の凡人社
- 「日本語の意味 英語の意味」 南雲堂
- 「林丈二的考現学」 認知科学選書16 東京大学出版会
- 「おおきなかぶ」 福音館書店